

# 香川大学ブランド「UU (Udon University)」

代表者 三木 清太郎 (工学部安全システム建設工学科 3年)

## 1. 目的と概要

目的：「香川大学ブランド力の向上・新商品の開発」

概要：香川大学のブランド力の向上を目標に、大学ブランドの商品作りという観点から「学生の欲しいを学生に聞き学生が生み出す」をモットーに、このプロジェクトを進めて行きたいと考えています。

そのために、まず学生の欲しいというニーズについて調べるためにアンケート調査を行ったり、製作過程に少しでも多くの学生に関わってもらうためにも、また来年度に向けて興味のある人を見つけるためにも、デザインの部分をワールドカフェという対話型の手法を用いて進めて行きたいと考えています。

今年度は、2014年の1月を目標に香川大学初のPB（プライベートブランド）として「UU」の商品を1種類販売したいと考えています。

\*PB(プライベートブランド)

独自のブランド(商標)で販売されるその店の専用の自主企画商品のこと。「PB」と略される。ナショナルブランドの対義語。

## 2. 実施期間(実施日)

平成25年5月1日 から 平成26年3月31日 まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、代表三木の「香川大学のブランド商品をもっと学生の身近なものにしたい」という想いから始まりました。執行予算が決定後、本格的に活動を開始しました。当初の計画では、アンケート調査を行う事で大学のニーズを捕らえ、必要とされている商品を開発していこうという計画でした。しかし、実際にアンケートを行ってみてもこれといった商品が決まらず、予定していたスケジュールがかなり遅れてしまいました。その中でメンバーの入れ替わり等もあり、自分の中では一番しんどかった時期だと感じています。そうしながらも、試行錯誤を繰り返し、その中でたどり着いた開発ツールがデザイン思考というワールド・カフェに

近い対話形式のワークショップでした（\*ワールド・カフェ、デザイン思考についての詳細は、下記に記載しています）。デザイン思考のワークショップは、東京から日本での第一人者の方をお呼びしてメンバー以外の沢山の学生にも参加してもらい、勉強会を行いました。



図1 2013年10月14日デザイン思考ワークショップ in 香川大学

そして、今回このデザイン思考というツールを使い、香川大学の名刺を学生がもっと使いたくなる事を意識した上でリニューアルさせて頂きました。それが下図の写真になります。



図2 大学ブランドリニューアル名刺

これまでの大学の名刺は、大学生協さんで片面印刷で100枚2600円で販売されています。これは、おそらく大学生協さんが名刺を学生向けに用意されて以降、変化の無かったものだと思います。しかしながら、購入者（学生）のニーズは時代と共に大きく変化しています。実際に学生へ今の名刺の印象を伺ったところ、「学校公認なので持つ事のメリットは感じるが、あまり持ちたいと思わない」、「買おうと思わない」という意見がありました。デザイン思考では、なぜそのような意見があるのかという事を更に深めて行きました。そこで、1つのニーズを見つける事が出来ました。それは、「外見が優れている」ことです。シンプルに購入者が使っていて可愛いと感じたりカッコいいと感じられる名刺だったら使いたいという事です。自分自身の所属している大学が確認できる名刺を使うことで、個々の大学に関する認識が変わるのではないかと考えています。そのために、名刺は香川大学の6つの大学のカラーを意識して頂くために学部ごとにカラーを変えています。そして、現状広報の部分に力が行き届いていませんが、自分たちの身の回りの学内外で活動している学生が使用してくれています。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

現状この名刺によってどのような影響が出たのかは、調査することができていません。しかしながら、これまでのよりも自分の所属大学・学部の分かる名刺を持つ学生が増えた事は確かです。今後、香川大学の学生が更に活動の幅を広げ、社会とも交流するようになると、必ず礼儀の1つとして自分の所属が分かる名刺は必要です。今回完成した名刺に限らず、大学生が当たり前のように名刺を持ち自分の所属場所を伝える事が出来る大学というのも価値のある事だと思います。

また、実際に自分自身も含めてこの名刺を使ってもらってくれている大学生に社会人の方に渡した時の反応を確認したところ、とても興味を持って話の1つのネタとなるようです。場所に依じて使い分ける必要があるという大学関係者からの意見を頂いたのですが、現状そのような意見は企業様等から頂いていないので、今後も使用者や受け取って頂いた方の意見を参考にしながら、少しずつ改良を加えて行きたいと考えています。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

上記で述べた事と同じ事になるかもしれないのですが、これまでよりも学生が自分の大学、学部を証明できる名刺を持ったという事が一番大きいと考えています。また、仮説もしくは期待ではありますが、名刺を使う事で自分の所属意識を少しずつ高めて頂き、その結果、香川大学の学生であるという事に責任感を持ち、それに伴う行動が広がっていけばと思います。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今回、学生支援プロジェクトとして予算を頂き、ゼロから自分たちのアイデアの商品を形にしていき、それを気に入ってくれた方が購入してくれるという商品開発のプロセスを体験することができて、とても多くの事を学ぶ事ができたと思っています。経済学部の授業でもこのようなプロセスを座学として学ぶようですが、やはり実際に体験してみると、違う観点から難しさ・楽しさを経験出来ました。ここからは、僕個人の考えではありますが、大学という非常に有効なプラットフォームがあるのだから十分に活用し、座学と実践の場の両方が体験できる場所になれば良いと思っています。そのために私たち香川大学 CREATI 部では、これからもこの活動を続け、学生への商品開発の実践場を創って行きたいと考えています。実際に現在、次のプロダクト開発の準備も進んでおり、経済学部の2年生をプロジェクトリーダーとして来年度も活動させて頂こうと考えています。

## 7. 実施メンバー

代表者	三木	清太郎	(工学部3年)
構成員	小野	拓也	(農学部4年)
	大森	達郎	(教育学部3年)
	河野	翔太	(経済学部2年)